

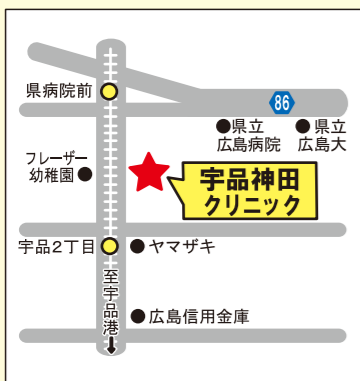
今回は「いつでも身近にかかれる精神科」を心がけておられる宇品神田クリニック、東方田先生です。



東方田先生

宇品神田クリニック

〒734-0004
広島市南区宇品神田1丁目8-21
電話・FAX/082-253-5344
院長/東方田 芳邦
診療科/心療内科・精神科



○いつ頃開業されましたか。

平成10年10月に開業しました。それまでは、大学病院や賀茂病院（『現』賀茂精神医療センター）、直近では県病院で比較的長く勤務させていただいていました。診療方針は県病院時代と変わらずに、今でもやっております。

○東方田先生が毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

気楽に受診していただけるように、できる限り患者さんの要望、要請にお応えすることを一番に心がけております。少しでも患者さんの待ち時間を少なくしたいと予約制にしつつ、急な診療のご相談があった場合にもできる限りお応えできるようにと努めております。

○開業医としてのおもしろさはどんなところですか。

勤務医時代よりも診療の時間の融通がつくようになり、患者さんの希望に沿いやすくなったことですかね。県病院時代もけっこう融通をきかせていただいていた

ましたが、開業して時間枠がより広がったことでより患者さんの希望に沿えるようになったのではないかと感じております。

○県病院についてひとことお願いします。

頼りになる病院だと思っております。検査や加療、救急相談など、様々な紹介をさせていただき、また、受けていただき、本当にありがたいです。特に、急変した患者さんの受け入れは本当に助かっています。



宇品神田クリニック外観

【取材後記】

とても紳士的で優しい東方田先生。先生を頼っておられる患者様がいらっしゃる理由がとてもよくわかりました。また、趣味はモーターパラグライダーと伺い、紳士的で優しい雰囲気とのギャップがまたとても魅力的に感じられました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

県病院レシピ

栄養管理科から、実際に糖尿病や肥満・高血圧の患者様にお出ししている献立を、当院ホームページにアップしておりますのでご紹介します。病院食といっても、家庭に馴染めるものばかりなので、ご家族の方もぜひ一緒にどうぞ!

朝食



食パン・ポトフ風・ゆで卵・サラダ・牛乳

POINT

汁物は汁少なめで具たくさんなものにチェンジ!スープをポトフ風にすれば、塩分が半分に抑えられます。

エネルギー 533kcal

塩分 1.8g

※詳しいレシピは当院HPで

夕食



エネルギー 536kcal

塩分 2.1g

ごはん・鶏のトマトソース煮・切干大根の煮物・野菜サラダ・キウイ

POINT

トマトの酸味を活かして減塩!
トマト料理は、塩分控えめの味付けでも、おいしく食べることができます。

昼食



生姜ごはん・焼き魚(鯛)・冷し豆乳茶碗蒸し

POINT

果物をメニューに取り入れたい所ですが、特別な日などは、低カロリーなデザートもいろいろあります。

エネルギー 532kcal

塩分 2.1g

※詳しいレシピは当院HPで

県立広島病院からのお知らせ

第7回 地域健康フォーラム

とき 平成24年10月13日(土)
13:30~15:30

ところ 中央棟2階 講堂

テーマ 脳・心臓・血管の病気を知ろう!

講師 循環器内科 上田 浩徳

心臓血管・呼吸器外科 三井 法真

さとう脳神経外科クリニック 佐藤 秀樹

主催 地域連携科

問合せ先 TEL:082-254-1818

9月のがんサロン

とき 平成24年9月19日(水)
14:00~15:30

ところ 新東棟2階 総合研修室

内容 学習会・交流会

対象 悪性腫瘍(がん)で通院または入院されている患者様及びそのご家族

問合せ先 地域連携科

TEL:082-256-3562(直通)

診療科だより

第21回

産科

今回は、産科の上田主任部長にインタビューです!!

はじめに、「産科」について教えてください。

県立広島病院には他の病院のような「産婦人科」ではなく、産科と婦人科の二つの診療科があります。外来部門は産科と婦人科の患者さんを一緒に診療していますが、入院部門は産科が西4病棟、婦人科が西7病棟と完全に分かれており、スタッフも別々です。主任部長は産科と婦人科それぞれを別に担当していますが、それ以外の医師は両方を兼務しています。ちなみに、一般的な産婦人科の診療分野には不妊症やこれに関係する月経異常なども含まれますが、当院の場合、これらは原則として生殖医療科が担当していますので、産婦人科が専門性を持った三つの診療部門に分かれている、ということになります。

産科では、どのような診療が、どんなスタッフによって行われていますか？

私は産科主任部長として妊婦さんの診療を担当していますが、子宮がん、卵巣腫瘍、不妊症患者さんなどの診療は行っておらず、文字通り「産科医」です。全国の母子医療専門病院やこども病院ではこのような産科専門の診療形態がありますが、中国地方ではおそらく当院だけの特徴です。

双胎、前置胎盤、胎児異常などの産科的異常や糖尿病などの持病のある妊婦さん、あるいは妊娠した時点では一見健康なのですが高齢の方などは、将来の妊娠経過や分娩時に異常を起こす可能性が高く、これらを「ハイリスク妊娠」といいます。当科の役割

は高い専門性を持ってハイリスク妊娠を安全に分娩まで管理することです。このため、外来受診される妊婦さんの8割以上が他の医療機関からの紹介患者さんです。

最後に、産科としてここがけていることを教えてください。

他の病院で分娩予定であった（時には分娩中の）妊婦さんに急に重大な異常が発生することもあります。このような場合には急きょ救急車で当科に移動されて、その後の管理を当科で引き受けることとなります。これを「緊急母体搬送」といいますが、当科は広島県における総合母子医療センターとして1年間に130人前後の妊婦さんを緊急母体搬送で受け入れています。このためには、産科だけでなく新生児科、小児外科、麻酔科、手術部門などとの円滑な連携が必要ですが、一刻をあらそう帝王切開の時は他の手術に優先して緊急手術を開始できるように協力していただくなど、普段からの協力体制ができています。



上田主任部長



産科スタッフの皆さんです

看護部だより

産婦人科外来

安心して診察を受けて頂けるよう心がけています。

産婦人科外来は、医師、看護師・助産師、メディカルクラークがチームを組んで、診療または診療の介助をしています。産科では妊婦健診や産後1ヶ月健診と、助産師による妊婦健診（助産外来）や保健指導を行っています。妊婦さんはセミオープンシステム（近くの診療所・クリニック等で健診を受け、分娩は当院でというシステム）を利用される方、里帰り出産、当科ですと健診される方等受診方法はさまざまです。また、リスクのある妊婦さんの紹介も多くあります。婦人科では、女性生殖器の疾患や、ホルモン異常に関連した疾患の診療を行っています。受診患者さんは、10歳から90歳代と幅広い年齢層で、女性の一生を通して関わる科です。診察では羞恥心や恐怖感をもたれる患者さんもおられますが、「声かけ」「笑顔」を忘れず、安心して診察を受けていただけるよう心がけています。



笑顔が眩しい産婦人科外来の皆さんです

外科医の独り言

no.12

— ドクターコール —

新幹線に乗っていると「車内にお医者様がいらっしゃいましたら〇号車にお越しく下さい」というドクターコールに遭遇することがあります。この時パッと立ち上がってかっこよく行きたいのですが、何故かちょっと躊躇します。あるアンケートで、ドクターコールに応じると答えた医師はわずか3割だったそうです。もちろん医師としての責任感にはありますが、専門外のことで自らの手に余る判断を強いられる場合にどうしようかと躊躇するのです。しかし新幹線は大丈夫です、いざとなれば最寄りの駅までわずか10～20分です。その間を何とかしのげれば良いのですが、問題は飛行機です。

7、8年前イタリアへ学会で行った帰りミラノ・マルペンサ空港の待合室での出来事。若い日本人女性が前かがみになって苦しそうにしていました。隣には若い男性が心配そうな顔をしてオロオロ。新婚旅行の帰りとのこと。そこにツアーの添乗員らしき女性が来てまたオロオロ。私が「どうされたのですか？」と声をかけると、朝からお腹が痛くて、空港に来てさらに痛みは激しくなったとの事。添乗員の女性が私に「お医者さんですか」と尋ねてきました。一瞬躊躇した後「違います」とは言えず小さな声で「は、はい」と。私がためらった理由は、私の判断一つで多くの人に迷惑をかけるかもしれないからです。大丈夫と判断して飛行機に乗せて、空の上で急変すれば飛行機は引き返さなければなりません。それに伴う損失は如何ほど？それでも引き返せばよいけど引き返せなかった時どうする？といった不安が一瞬のうちに頭をよぎったのです。出発まであと30分、幸か不幸か同じ飛行機。私が“無理”と判断すれば彼女はミラノの病院へ。ひとまずお腹を

触って頼りは今までの経験だけ。盲腸の初期が急性の胃潰瘍または胃炎？診断はどうでもいい、日本までの11時間持つかどうか。少なくとも腹膜炎ではなく、万が一飛行機の中で腹膜炎になってもまあ数時間は大丈夫という自信はあったものの、大事をとればミラノの病院へ直行が無難かと思った矢先、若い女性が苦しみながら一言「先生、日本に帰りたい」。じゃあ帰ろう、とあっさり決めて機上に。あらかじめスチュワーデスから備え付けの救急セットを見せてもらってビックリ、様々な薬と注射器、ショックや心停止をきたした時に使う薬や気管内挿管の器具まで。こんなものの出番があるようでは、かなわんと思いつつ彼女の隣に陣取って、とりあえず痛み止めの注射をしました。飛行機が飛び立ち、もう戻れんな、と開き直った途端爆睡してしまいました。幸い痛みは注射で軽くなり、そのあともう一本注射して無事関西空港に着きました。

後日、若い女性からお礼の手紙が来ました。小さな胃潰瘍が沢山出来ていて、ストレスが原因と言われたそうです。しかし、楽しいはずの新婚旅行で何がストレスだったのか、その若夫婦の将来を心配した事をよく覚えています。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本敏行(いたもと としゆき)

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承ください。